

団長の独り言

「お芝居が出来る日常に感謝」

劇団活動が休止してからどれくらいたつのだろうか？えーっと・・・2月公演が終わったのが2月9日(日)。週の2月15日(土)が反省会で、いつもの稽古場に集合したのが最後だったから：あれから5カ月！！ひょえーそんなにも劇団活動なるものを行っていないのかあ。

土日の夜といえば芝居の稽古。

その日、早朝より仕事が入ってクタクタで死にそうになっていても稽古場に這うように行って、真剣に芝居創りと向き合って、「笑って」「怒って」「悩んで」「楽しんで」って人生が「当たり前」だったのに。そんなスタイルを21年間も続けてきたのにねえ。

それがどうだろうか？今の私ときたら、土日の夜は必ず、家でNHK7時のニュースを見ながら、晩御飯を食べている。

これが今の平野恒雄の「当たり前」。

最初は生活の変化に戸惑っていたのに、5カ月もそんな生活が続くと、それが「当たり前」となり、今じゃ

「土日の夜、7時のニュースを見ながら家で晩御飯を食べる日常」も、なんの違和感もなく穏やかな気持ちで過ごせるようになっていて。

いやはや、人つてのはなかなか大したものだ。

しかしだからといって、このまま「今の生活」を永遠に続けるつもりはこれっぽっちもない。

だって、ここまで劇団ふあんハウスを続けてきたんだからねえ。

「立ち上げから現在まで」のありのままの劇団ふあんハウスの姿を収録したビデオを、全編通して見直してみていると、劇団ふあんハウスは、ゆっくりだけど進歩していた。

やっぱり、ここで動きを止めるわけにはいかない。

まあー集客問題やキャスト不足問題は常に付きまとうけれど、多くの関係者皆様、ファンの方々が劇団ふあんハウスの復活を待ち望んで下さっているのだから、「今の日常」にどっ

ぱり浸ってしまい、感性がぼやけなようにしなければ。

今はとにかく様々なジャンルの本を読み、古典から現代劇にいたるまで、市販されている脚本を手にとって、全キャストの役を、ひとりで声色を変えつつ演じるなど、脳みそと感性を動かすように心掛けています。

ちなみにこのコロナ騒動に突入してから読んだ本は、「革命前夜」(須賀しのぶ)「ステップ」(重松清)「ボクはやつと認知症のことがわかった」(長谷川和夫)「悲憤」(中野太郎)

読み終えて思う事はたくさんあり、それをお伝えしたいところだが、私の本の感想を書けば、間違いなく長くなるので、「団長の独り言」では省略するけれど、どの本も夢中になって読みましたね。

その中でも「革命前夜」は、なかなか読み応えがあったなあ。本を選ぶ基準は、平積みされていて、「今！話題！」「売れてます」「おすすめ！」みたいな事が書かれている本を手あたり次第やってやっ。

そうやって脳みそを動かしたところで、次回公演「ぎ・クリーンキーパー」の脚本見直し作業に手を付け始めた。

8月に上演する予定で、脚本を書き直したはずなのに、正式なキャストティングを終えて読み返してみると、演じる役者と登場人物が、しっかりと来ない箇所が私の中で出てきたので、せっかく公演が延期になった事だし、あれやこれやとまたまた書き直したくなり、2月にY・Tさんをお願いをして「脚本の矛盾点」を指摘していただいたお手紙をまた読み返しつつ、あれやこれやと見直し作業を行っている、早く「ぎ・クリーンキーパー」の稽古がしたいなあーって芝居の虫が益々疼き出す。

稽古が再開したらどんな感じなのか？これまでの稽古始めとはあきらかに違うだろうか。

その時は「土日の夜は芝居の稽古」という日常生活にちゃんと感謝をして、丁寧丁寧にお芝居ってやつと向き合おうと思う。